

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04375

研究課題名(和文) 不信の4層モデルにもとづく難治性疼痛の医療者不信の把握と改善に向けた短期縦断研究

研究課題名(英文) A short-term longitudinal study to understand and improve medical distrust in chronic pain based on a four-tier model of distrust

研究代表者

義田 俊之 (Yoshida, Toshiyuki)

国際医療福祉大学・福岡保健医療学部・講師

研究者番号：60585933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：慢性疼痛患者で、医療への不信が強いと以下の特徴を示す。(a)破局化(痛みの最悪の結果を考えてしまうこと)、生活障害が強い。人間関係の過敏さ、怒り、抑うつ・不安、身体化などの問題を抱えやすい。(b)愛着の自己観がよくない(「困っても助けてもらえない」と感じやすい)。(c)心身症と関連が強いアレキシサイミア(感情の言語化困難)、特に感情同定困難(自分の気持が分からない)が強く、その結果、抑うつ症状も強い。その背後に、マイナスの考えや感情に、関係ないことに気を移す、他者の対処を参考にする人は抑うつが弱く、別のマイナスな事を考える、マイナスの考えや感情を否認する人は抑うつが強い。

研究成果の学術的意義や社会的意義

慢性疼痛患者の中に、治療の中で、医療に対する不信感を顕在化させる一群が存在し、医療者を困惑させてきた。本研究では、彼らが、痛みの問題だけでなく、様々な心身の症状を抱えていることに加え、援助を受ける関係に入る上での難しさや、自身のネガティブな思考や感情のコントロールが巧みでないなど、臨床につながる心理的側面、对人的側面の特徴を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：Patients with chronic pain who have a high level of distrust in medical care are more likely to (a) show more considerable pain catastrophizing (thinking about the worst consequences of their pain), substantial impairments, and experience irritability, anger, depression/anxiety, and somatization, (b) have poorer self-view of attachment (prone to feel that "I can't get help for my problems"), (c) show stronger alexithymia (difficulty in verbalizing emotions), which is strongly associated with psychosomatic illness, especially difficulty in identifying emotion and, as a result, depressive symptoms are intense. Behind this, controlling negative thoughts and feelings by distraction and social control (referring to others' coping skills) leads to less depression, worry (thinking about other negative things), and punishment (denying negative thoughts and feelings) lead to profound depression.

研究分野：臨床心理学

キーワード：医療不信 慢性疼痛 アレキシサイミア 愛着 メタ認知

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

慢性疼痛患者の中に、治療の中で、医療に対する不信感を顕在化させる一群が存在し、医療者を困惑させてきた。慢性疼痛の診療では、患者にとって満足のいく結果がすぐに得られない欲求不満状況が惹起されることがあるが、その状況においても、医療者と患者が交流を続ける必要がある。そのため、患者の医療に対する不信感の程度によって、転帰や経過が影響される可能性がある。しかしながら、慢性疼痛患者の中で、医療不信の強い患者が、対人的・心理的側面にどのような特徴を持つのか、治療反応性をどの程度予測するのかは、未だ実証的には明らかにされていなかった。

### 2. 研究の目的

慢性疼痛患者における医療不信と、痛み関連指標、対人的・心理的側面との関連を明らかにすることを目的とした。具体的には、広範な心身の症状、愛着（他者から援助を受けるという人間関係の持ち方）、ネガティブな内的体験のコントロール法との関連を調べた。

さらに、初診時の医療不信が、その後の治療反応性を予測するののかも検討した。

### 3. 研究の方法

#### 対象

疼痛期間が3か月以上の慢性疼痛患者を対象とした質問紙調査を実施した。

#### 評価項目

対象者は、初診時に以下の(1)-(3)の項目に対して回答した。

#### (1) 医療不信の強さ

対象者にこれまで受けてきた医療への信頼感について、信頼できる程度を0~100mmのVisual Analogue Scaleで評価を求めた。そして、医療に対する不信感の強さを「100 - 医療への信頼感のVAS」mmとして算出した。値が大きいほど、これまで受けてきた医療に対して不信感が強いことを示す。

#### (2) 痛み関連指標

対象者は、(a)痛み強度の測度としてBrief Pain Inventory (BPI)に、(b)疼痛生活障害の測度としてPain Disability Assessment Scale (PDAS)に、(c)痛みの破局化の測度としてPain Catastrophizing Scale (PCS)日本語版に回答した。

#### (3) 対人的・心理的側面の変数

対象者は、(a)心身の症状および対人的問題の測度としてSymptom Checklist-90-Revised (SCL-90-R)日本語版に回答した。また、(b)援助されるという対人関係の持ち方である愛着の自己観・他者観の測度として、the Experiences in Close Relationships inventory (ECR)日本語版に回答した。

さらに、対象者は、ネガティブな内的体験のコントロール方として、(c)アレキシサイミア傾向の測度である日本語版The 20-item Toronto Alexithymia Scale (TAS-20)日本語版に、(d)ネガティブな思考に対するコントロール方略の測度であるThought Control Questionnaire日本語版(TCQ-J)に回答した。

また、対象者は、(e)抑うつ症状の測度であるHospital Anxiety and Depression Scale日本語版の抑うつ指標に回答した。

#### (4) 治療反応性

さらに、対象者は、治療開始から半年後に、痛みの破局化の測度としてPain Catastrophizing Scale (PCS)日本語版に再度回答した。

### 4. 研究成果

「図1 本研究の結果から見た、慢性疼痛患者の医療不信の背景要因と介入指針」に示したような成果が得られた。

慢性疼痛患者で、医療への不信が強いと、痛み関連指標に関しては、破局化（痛みの最悪の結果を考えてしまうこと）、生活障害が強いことが明らかになった。

対人的・心理的変数に関しては、医療への不信が強いと、人間関係の過敏さ、怒り、抑うつ・不安、身体化などの問題を抱えやすいことが分かった。医療者が対応に苦慮する多彩な訴えの実態を把握することができた。また、医療への不信が強いと、愛着の自己観が良好でない（「困っても助けてもらえない」と感じやすい）ことも明らかにされた。

さらに、医療不信が強い慢性疼痛患者ほど、心身症と関連が強いアレキシサイミア（感情の言語化困難）が強く、不快感情が未分化であり、この不快感情が痛みの不快感に混入して痛みの苦悩体験が膨張し、破局化が強まることを示した。また、アレキシサイミア傾向の中でも、特に感情同定困難（自分の気持ちが分からない）が強く、その結果、抑うつ症状も強いことも示された。その背後に、ネガティブな考えや感情に、関係ないことに気を移す対処や、他者の対処を参考にして対処を行う人は抑うつが弱く、別のマイナスな事を考える対処や、マイナスの考えや感情を否認する対処を行う人は抑うつが強いことが分かった。これら、ネガティブな内的体験のコントロール法に関する結果からは、難治性の慢性疼痛患者が、「こんな気持ちになってはいけない」と、自己のネガティブな内的体験を承認できない問題を抱えていることが明らかにされた。

これに加えて、初診時に医療への信頼度が好ましくない患者ほど、痛みの破局化が強く、痛みもより重症だったものの、半年間の治療を受けた後には破局化が改善することを初めて示し、治療初期の関係構築で破局化が改善することを明らかにした。

これらの結果をもとに、医療不信を背景に持つ慢性疼痛患者への対応における段階的な治療について考察した。すなわち、まず、治療者-患者関係の安定を念頭に置いた関わりを行い、その上で、治療者の援助を伴いつつ、マインドフルネス瞑想法などの手法で自己の内面のモニタリングを促し、自己のネガティブな内的体験の認識と承認の機会を保障し、不快感情を表出する機会を設けていくことが望ましいと考えられる。

上記のように、慢性疼痛患者において、医療不信と、様々な対人的・心理的側面との関連を示す基礎的な成果、臨床的示唆が得られた。

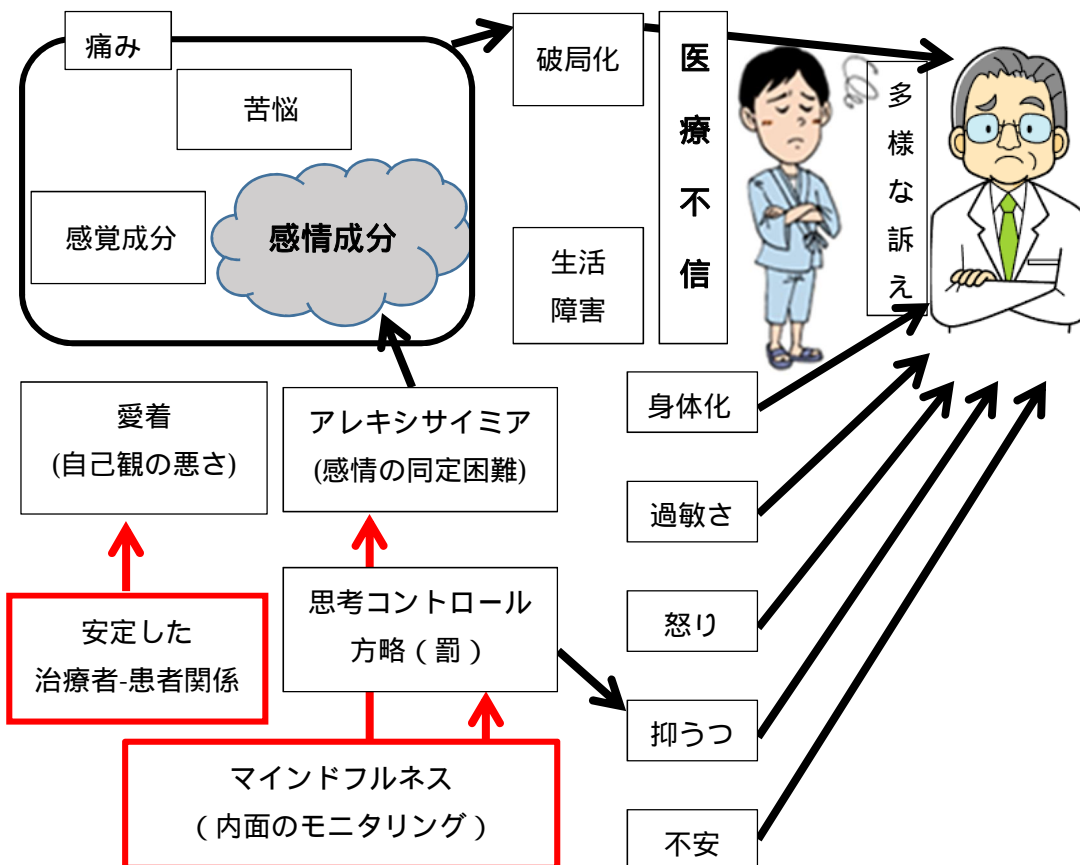


図 1 本研究の結果から見た、慢性疼痛患者の医療不信の背景要因と臨床的示唆

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 細井昌子	4. 巻 58
2. 論文標題 慢性疼痛難治例に対する段階的心身医学的治療 愛着・認知・情動・行動障害の観点からのアプローチ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心身医学	6. 最初と最後の頁 404-410
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.15064/jjpm.58.5_404">https://doi.org/10.15064/jjpm.58.5_404</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 義田俊之, 細井昌子, 安野広三, 河田 浩, 早木千絵, 岩城理恵, 西原智恵, 柴田舞欧, 須藤信行
2. 発表標題 慢性疼痛患者において感情同定困難と抑うつとの関連を媒介するのは何か? -愛着と思考コントロール方略からの検討-
3. 学会等名 第47回日本心身医学会総会ならびに学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 義田俊之
2. 発表標題 健常群でアレキシサイミア傾向を予測するのはどのような思考コントロール方略か?
3. 学会等名 第82回日本心理学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安野広三, 細井昌子, 早木千絵, 西原智恵, 柴田舞欧, 岩城理恵, 須藤信行
2. 発表標題 慢性疼痛に対するマインドフルネスに基づく介入の効果予測因子：予備的研究
3. 学会等名 第47回日本心身医学会総会ならびに学術講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 義田俊之, 安野広三, 岩城理恵, 富岡光直, 柴田舞欧, 早木千絵, 須藤信行, 細井昌子
2. 発表標題 医療不信が強い慢性疼痛患者は痛みや感情をどのように捉えているのか?
3. 学会等名 第58回日本心身医学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 義田俊之, 安野広三, 岩城理恵, 富岡光直, 柴田舞欧, 早木千絵, 須藤信行, 細井昌子
2. 発表標題 破局化を予測する思考コントロール方略は何か?
3. 学会等名 第58回日本心身医学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 義田俊之
2. 発表標題 健常群における痛みの破局化を予測するのはどのような思考コントロール方略か?
3. 学会等名 第82回日本心理学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 義田俊之, 安野広三, 河田 浩, 早木千絵, 岩城理恵, 西原智恵, 柴田舞欧, 須藤信行, 細井昌子
2. 発表標題 慢性疼痛患者における感情同定困難と抑うつとの関連の背景を探る: 愛着と思考コントロール方略
3. 学会等名 第47回日本慢性疼痛学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 義田 俊之, 安野 広三, 岩城 理恵, 富岡 光直, 早木 千絵, 須藤 信行, 細井 昌子
2. 発表標題 医療に対する不信感がある慢性疼痛患者はどのような対人的・心理的特徴を持つのか?
3. 学会等名 運動器疼痛学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 義田俊之, 細井昌子, 安野広三, 岩城理恵, 富岡光直, 柴田舞欧, 早木千絵, 須藤信行
2. 発表標題 医療不信が強い慢性疼痛患者は不快感情や痛みをどのように捉えているのか? : 観察研究の結果から
3. 学会等名 第58回日本心身医学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 義田俊之, 細井昌子, 安野広三, 岩城理恵, 富岡光直, 柴田舞欧, 早木千絵, 須藤信行
2. 発表標題 慢性疼痛患者において痛みの破局化と相関する思考コントロール方略は何か? : 観察研究の結果から
3. 学会等名 第58回日本心身医学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中 佑, 細井昌子, 安野広三, 柴田舞欧, 西原智恵, 岩城理恵, 須藤信行
2. 発表標題 心療内科初診時の医療への信頼感の低さは、慢性疼痛患者における痛みの破局化の改善を予測する
3. 学会等名 第23回日本心療内科学会総会・学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	細井 昌子  (Hosoi Masako)  (80380400)	九州大学・大学病院・講師    (17102)	